

まわりの環境をよく聞くとこんなにおもしろい

(年取るということ日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2009/04/4

不思議な記憶力

料理中に冷蔵庫を開けている夫に「マヨネーズを取ってください」と言うプロセスで、目の前の小刀が目に入ったら、「ナイフ取って…」と言葉が出掛かって「??…」と視覚の記憶と声のつながりに疑問を持ちながら間違いに気づいて、幸いに聞こえなかった夫にはっきりと「マヨネーズを取ってください」と言い直す。

2009/04/14

今すぐにしないが必要なことや買い足しする日用雑貨、文房具などを忘れないようメモをしたり、ポストイットで冷蔵庫とかに貼り付けておくのは、だれでもしていること。ところが、若い方と違うのは、「あっ、これメモしておかなくては」とメモ用紙とペンを手にするのに手間取るとメモする内容がなんだったか忘れることがある。ちょっと座って、この前にどこで何をしていて、メモを思いついたかの状況をたどると消えた記憶が甦るときもあれば、それも出てこない、次回思い出したときでいいとさっさと立って、次の用事にとりかかる。あきらめのいさぎ良さも年の功。メモを取るよりなすべきことをする方が肝心。

2009/04/15

洗濯屋のご主人の奇行

主婦の第一の話題は夫の行動批評。

クリーニング店の奥さんが配達に来て、勝手口が暗いので電気をつけたら、

「だいじょうぶですよ、昼間っからもったいない」「付けっぱなしするわけではないから」との応対から、「うちの主人は電気を小まめに消してくれなくて…」、「水道の蛇口やシャワーを思い切り捻って使いません?」と話が続き、さらに「ティッシュをちゃちゃちゃって取るし…」「えっ、どういうこと?」。

「一回とれば、二枚だから、一回で十分じゃないですか。それを三回するから六枚も一度に使うから減りが早いんですよ」「長年の習慣だから取り方を変えてくれないでしょうね」「言えば怒るから」「うちもトイレペーパーは二枚重ねでなくシングルにしたんですよ」。

さらに、話は続いて「ゴキブリが出たときどうします」「えっ、逃がさないように、すばやく新聞か雑誌で叩いてしまうけど」

「うちの主人はね、殺すのが嫌なのか、すばやく叩けないせいかわからないけど、叩いたりせず、その代わり、じっとゴキブリから視線を逸らさずに、消えるまでじっと動きを追って、消えた後、そのティッシュをちゃちゃちゃっと取って、ゴキブリの動いた足跡を消さんばかりに床を拭くんですよ」「死んだ父親がそれを見て、『ほら、彰宏のいつもののが始まったぞ』ってよく言っていました」「へえー、ホントに、おもしろいことされるのねー、ゴキブリにそうする人って始めて聞いたわー」二人で笑いながら、コントロールできない夫をあるがままに受け入れて笑い飛ばす油を売った井戸端会議でした。

2009/05/10

午後3時を回った頃、鮮魚店からソムリエが着けるようなベージュの裾長のエプロンを形良く掛けた若女将が出てきて、網囲いの向こうからやってきた三毛猫に、「あら、みいーちゃん、どうしたの」と声をかける。魚屋さんにネコは付き物なのか家族の一員に声を掛けるよう。「あらあら、だらしなくなっちゃって…」「み

ゃーん」とそのネコは親しげに答える。ネコに目をやると、薄手の白地に赤い縁取りのあるちゃんちゃんこが全体に横にずれている。胸のところで紐を結んであるようで落ちてはいないが、若女将の言うとおりの、まさにだらしない着方だ。どこぞにほっつき歩いて遊んできたのだろうか。若女将がきちんと着せ直してあげた後、満足げに歩き去った。ちゃんちゃんこを身にまとった三毛猫と若女将とのやりとりは、木戸銭なしの漫才の一席。

2009/06/05

夜7時のニュースから：

ひったくりをした警察官を取り押さえたお手柄高校生の談：「捕まえる側が捕まえられるなんて」、「世も末だな」。十数年しか生きていない若者の見事なコメントに大笑いしながら、こんな世の中にしてしまった責任を一瞬感じた。（千葉県市川市インストラクター）

 [目次へ戻る](#)